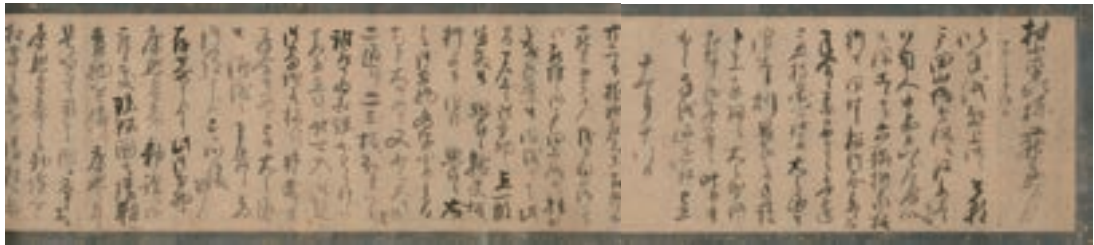


1) 長崎御番役日記 一括 ¥1,540,000

江戸後期の福岡藩士で、長崎御番役を務めた鎌田八郎兵衛(昌純)の勤務日誌。鎌田八郎兵衛については福岡藩の「安永分限帳」にその名が見え、禄高700石と記されている。本文書は、天明6年分を欠く天明3年～寛政7年分で、12冊の長崎御番役日誌を含む27冊の勤務日誌の他、勤方覚、絵図などを含んでいる。御番役日誌では、台場や番所の見回り、諸藩聞役との連絡、聞役らが出入りしていたと見られる茶屋への取り次ぎ、遠見番との連絡、石火矢組の指揮、漂流船、唐船、オランダ船など異国船入津の報告、国許との連絡などの記述が多く見える。藩内における勤務日誌では、年初行事、御番役の辞令や給金、またその交替や派遣の手順、石火矢組の指導などに関する記述が見える。各書の表題は以下の通り。

- ①鉄砲大頭役用覚(天明3)、②長崎三番々自分記録(天明3)、③天明四年甲辰正月方萬覚書、④長崎二番々日記(天明5)、⑤天明五年十月十五日方日記、⑥天明七年中覚書、⑦天明九年中萬留書、⑧寛政元年中留書一、⑨寛政元年中萬留書二、⑩寛政元年中萬留書三、⑪寛政貳年中萬留書、⑫寛政三年中萬留書、⑬長崎式番々日記壹(寛政3)、⑭寛政四年中萬留書、⑮長崎御番所日記二(寛政3)、⑯長崎御番日記三(寛政3)、⑰寛政四年覚書、⑱寛政四年覚書二、⑲寛政五年丑九月日記、⑳寛政五歳長崎老番々日記壹、㉑寛政五歳長崎老番々日記貳、㉒寛政五歳長崎老番々日記三、㉓寛政五年大呂月番日記、㉔寛政六年八月御番日記、㉕寛政七年五月大組頭日記、㉖寛政七卯年大組頭日記、㉗寛政七年十月御番日記

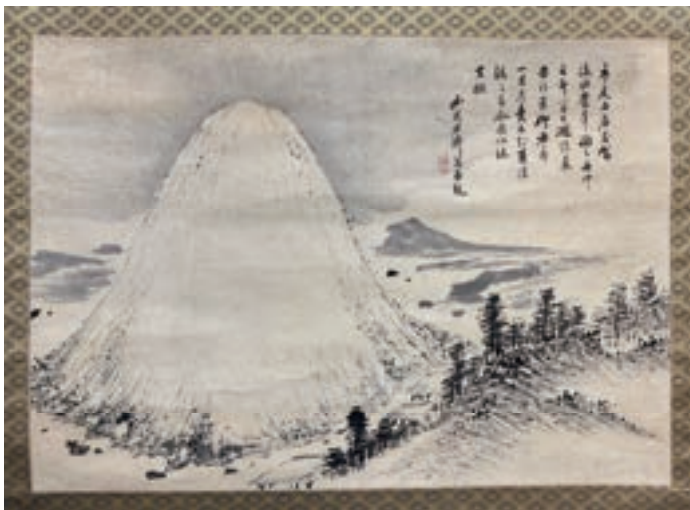


2) 荻生徂徠書状 1巻 ¥297,000

村小平次宛 享保5年頃筆 卷子装 15.5×100㎝

日付の異なる徂徠の書状2通を貼り込んだ卷子。1通は、戸田山城守から六論衍義の板行を命じられ、板行屋への指図を託されたことを記す。もう1通は、戸田山城守に訓点を評価され、板行時の文字の大きさについて指図を受けたこと、また板行に関する徂徠の意見を記している。一節に、「琉球国は清朝貢物を捧げ康熙年号をも用申国ニ御座候故、康熙皇帝之勅諭を相守候儀を清朝へ為知可申ため琉球国ニテ致重版候儀と相見申候、我国ハ清朝へ御通達無御座候儀ニ御座候へば、下ニテ致板行候は格別上より被仰付候儀、如何可有御座候哉…」と記している。

宛名の「村小平次」は、享保期に柳沢家の江戸屋敷において重役を務めた村井小平次か。



3) 富士之図 1幅 ¥440,000

方西園筆 安永9年頃写 紙本 表装
133×67㎝ 本紙44×62㎝ 【状態】僅かに虫損

唐船船主として長崎への来航経験もあつた方西園は、安永9年に房総沖で難破し、安房国朝夷郡千倉に漂着した。海路を安房から長崎へと廻送されたが、画家でもあつた西園は各地の港で絵を描き、特に数枚の富士の絵を残した。西園の絵は谷文晁をはじめ日本の画家たちに影響を与え、またその日本各地の写生画は「漂客奇賞図」(谷文晁模、寛政2年刊)に模刻された。本図は、西園が残した富士の図の内の一図で、長崎県立美術館主催「長崎を訪れた中国人の絵画」(1983)に出陳されたものである。



4) 中川十詠 1冊 ￥220,000

享保頃筆か 14丁 奥書「茗溪玉田沈陵手稿」「三呉若園沈陶手稿」 印記「沈陵之印」「玉田」「学斎」「朗山」
大和綴 26.3×19糎 【状態】少虫損、浸

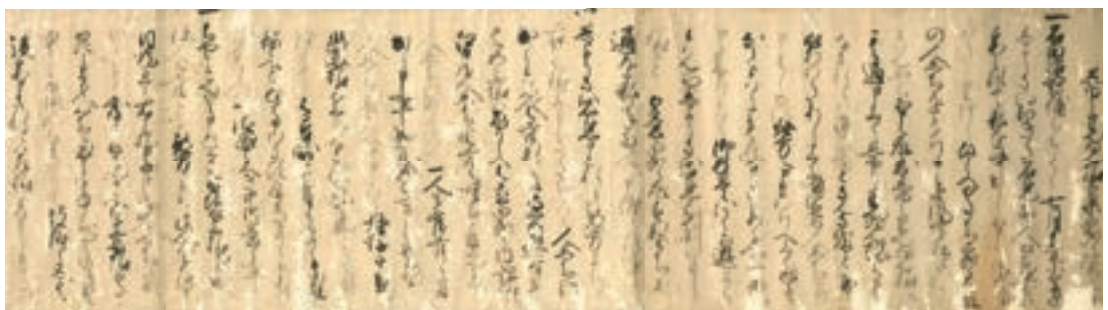
沈玉田と沈茗園は長崎貿易に従事した唐船船主で、共に享保7年に長崎へ来航しており、本書はその際に作成されたと見られる。文中に登場する「文挙陳先生」は、陳九官を祖とする唐通事の家系である穎川家5代、穎川彌藤太か。



5) 琉球人行列見聞記録 1巻 ￥39,600

玄廣様宛、壽口書状 寛政2年筆 15×75糎 【状態】僅かに虫損

寛政2年11月に江戸へ参府した琉球人行列の見物記録。行列を見るために集まった群衆の様子や、周辺の賑わい、また琉球使節の姿を「絵図」と引き比べ、その相違点などを記している。掲題は仮題。



6) しゅうりんみん様御果成られ候次第 1巻 ￥33,000

江戸中期頃写か 26.5×226糎 【状態】虫損・裏打ち(文字欠損多)

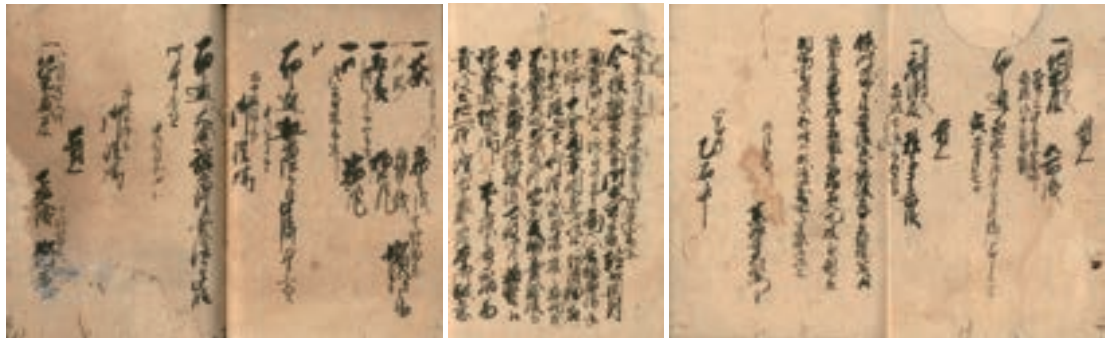
関ヶ原合戦時の細川ガラシャ(秀林院)の最後について、ガラシャの侍女であった霜が正保5年に記した覚書で、「霜女覚書」として知られるもの。本書は江戸中期頃の写しか。



7) 佐賀藩長崎関役文書 1冊 ¥110,000

幕末期写 31丁 25.7×19.5㎝ 【状態】虫損・破損(文字欠損あり)、反故紙による裏打ち

内容から、幕末期に長崎関役を務めた佐賀藩士、石川寛左衛門が作成した文書と見られる。他藩の長崎関役、長崎町年寄、長崎会所の宿老などへ宛てた書状や口上書、またはその文案を収めている。掲題は仮題。



8) 長崎市中取締方控 1冊 ¥55,000

幕末期写 24丁 22.5×16.5㎝ 【状態】虫損・破損(文字欠損あり)、反故紙による裏打ち

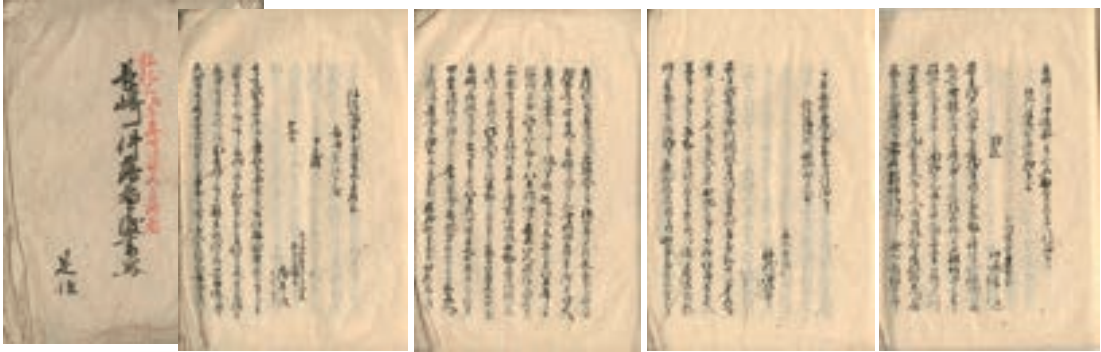
巻頭に「市中取締方御役所より御達書控並諸廻着御届売込何済値組代銀御届控米相場届」と記されている。各藩弘米の入札相場の届け書、安政6年に出された異国人との自由交易に関する達書、異国人へ売り込む品々の伺い書などを収録している。掲題は仮題。



9) 長崎北馬町乙名留書 1冊 ¥33,000

江戸後期写 11丁 25.7×19㎝ 【状態】虫損、反故紙による裏打ち

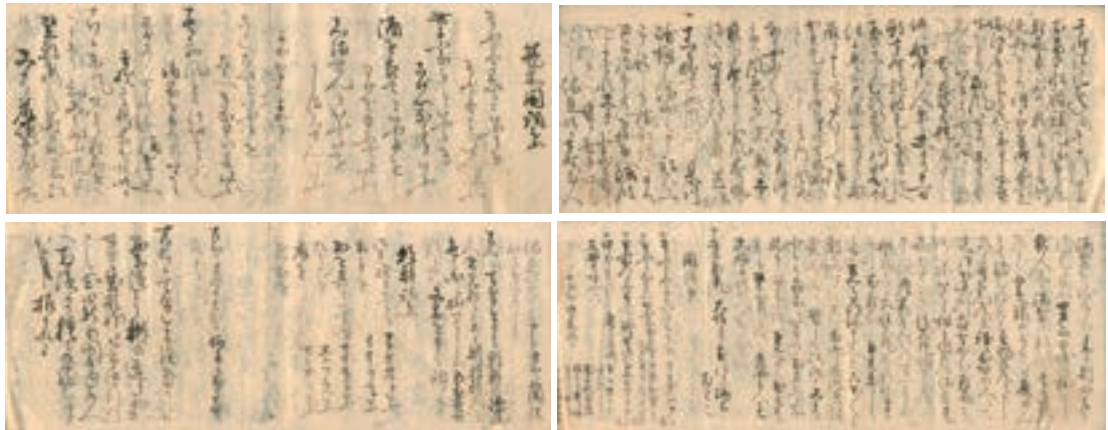
長崎北馬町の乙名が役所に提出した文書の写しと見られるもので、町民らの欠落届けや旅行願いなどが記されている。掲題は仮題。



10) 長崎一件落着申渡書写 1冊 ¥30,800

江戸後期写 32丁 表紙「弘化三丙午年七月廿五日落着」 紙縫綴 26.5×19.5種 【状態】角折れ

弘化3年に評定所より申し渡された、長崎会所頭取高嶋四郎太夫、唐通事神代徳次郎、鳥居甲斐守家来本庄辰輔、長崎奉行伊沢美作守家来武田矢柄、またその関係者らに対する評定の写し。



11) 対州行日記 1冊 ¥60,500

表紙「丙弘化三年／対州行日記／午十月吉日」 14丁 紙縫綴 12×31種 【状態】折れ

大阪を出航し、対馬へブリの買い付けに向かった船主の日記。兵庫、讃岐、伊予、下関と航路を巡り、各地で産物の売り買いをし、名所を訪ね、人々の響応を受けている。土地や人への印象の他、各地のお国言葉などを書き留めている。対馬では朝鮮の漂民と言葉を交わし、朝鮮言葉も記している。



12) 異国船渡来之節取計方 1冊 ¥55,000

江戸後期写 93丁 13.3×19.3種

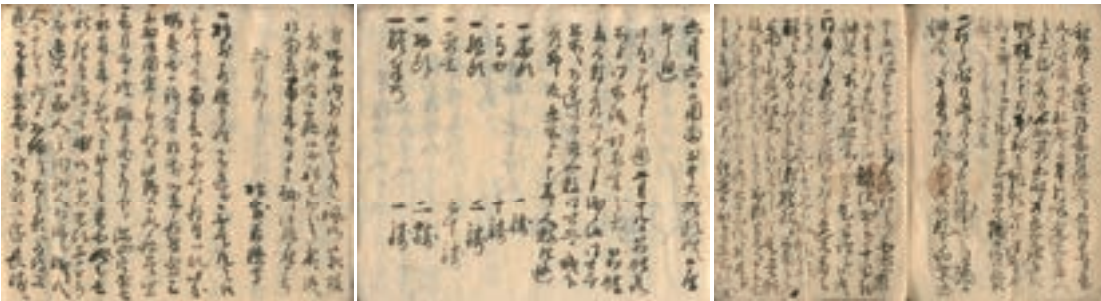
異国船渡来時の対応について記した書。無二念打払令を命じた文政8年の触書、文化露寇を受けた文化4年の「おろしや船取計方」、海岸防御と参勤交代の軽減を命じた天保13年の「異国船異国船渡来之節取計方」の他、軍令、海岸絵図、濱固手筈帳、行列帳などを収録する。レザノフをはじめとするロシア使節を迎えた際の「長崎立山役所之図」2図を挟み込む。



13) 北夷銷息 1冊 ￥60,500

和気春保写 江戸後期頃 94丁 蔵書印「岩淵文庫」【状態】一部虫損(文字欠損あり)

文化4年に起きた文化露寇に関する記録。文中の見出しに、①「秘中秘録」、②「俄羅斯国エルケウ巡撫贈松前奉行書」、③「満文書翰和解附例」の3条が見られる。①は、文化露寇時にロシア船に連れ去られ、ロシア国内を巡った末、ゴローニン事件の際の捕虜交換のために日本へ送還された択捉島の番人小頭、五郎治が、自ら見聞したロシア国内の情報を役所に報告したもの。②は、ゴローニン釈放に利用された、イルクーツク県知事トレスキンによる文化露寇に関する釈明書の和解。③は、満文として受け取った②を訳した際の凡例を記したもの。



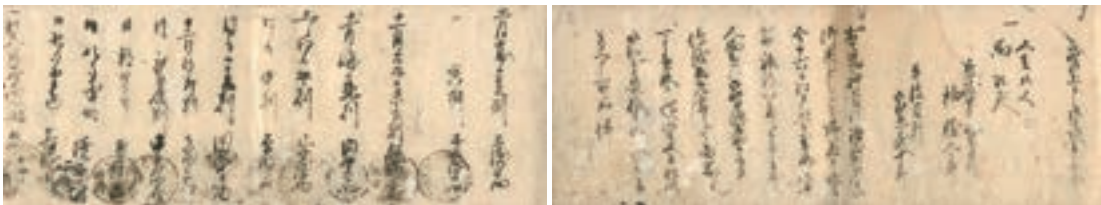
14) 文化露寇関係文書 2冊 ￥55,000

①表紙「文化四年丁卯八月／蝦夷地騒動一件／多湖復」17丁

文化3年から4年にかけて、ロシア使節レザノフの部下であったフヴォストフを首領とするロシア兵らが、樺太と択捉島を襲撃した文化露寇事件に関する記録。当地の警衛に当たっていた津軽弘前藩中の記録と見られ、戦況に関する注進、箱館奉行所からの派兵や増員の指図、触書、軍令、被害報告などの他、解放された日本人捕虜がもたらしたロシア側の情報も記されている。

②表紙「亜魯西騒動一件」9丁

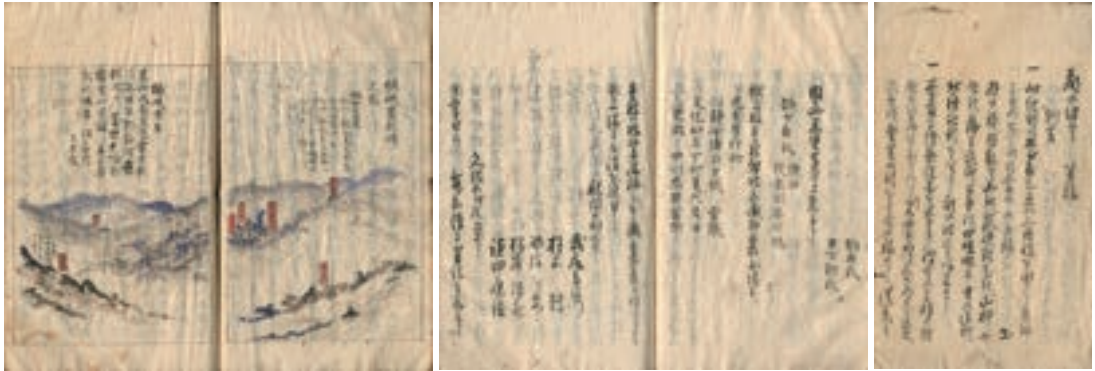
事件後の松前家への改易処分や、事件を目の当たりにした窪田見達という医師の見聞を記している。



15) 東海道川崎宿より長崎まで宿村御請印形帳 1冊 ￥27,500

江戸後期写 9丁 【状態】虫損・裏打

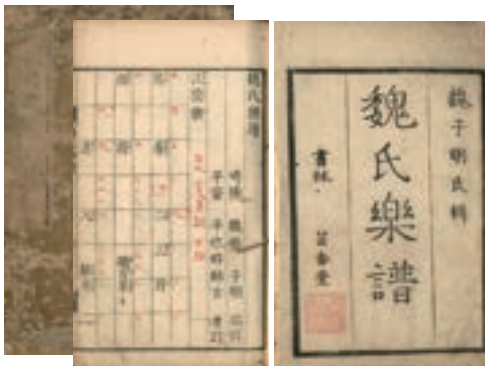
長崎の茶葉目利き柏勝二郎、牛皮目利き家原民十郎は、神奈川出張を命じられていたが、用が無くなったので当地の役所から帰郷するよう命じられた。本書はその際に役所に出された印形帳である。



16) 都のつと 1冊 ¥55,000

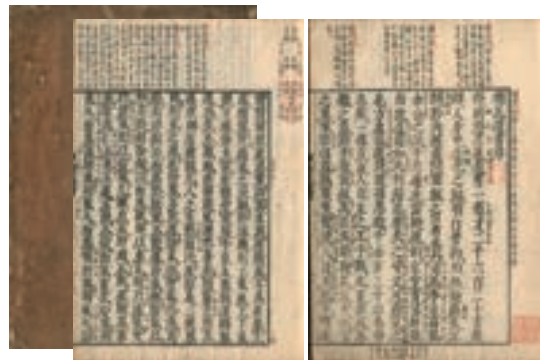
関場文武著 慶応2年筆 153丁 22.4×14.5匁 【状態】皴

幕末期の会津藩士、関場文武による道中日記。慶応2年に京都警衛の役を受け、上京した際の道中や、京、大阪、近江、北陸の旧跡を訪れた際のことを記している。文中の見出しに、「出遊日録」、「遊鞍馬山記」、「山科小遊記」、「蒲生氏郷公墓記」、「北陸紀行」の5条が見える。



18) 魏氏楽譜 1冊 ¥99,000

魏皓編輯 平信好考訂 須原屋茂兵衛ほか3肆
版 明和5年刊 朱書入 19.9×12.9匁 【状態】
表紙疵、虫損(文字欠損あり)



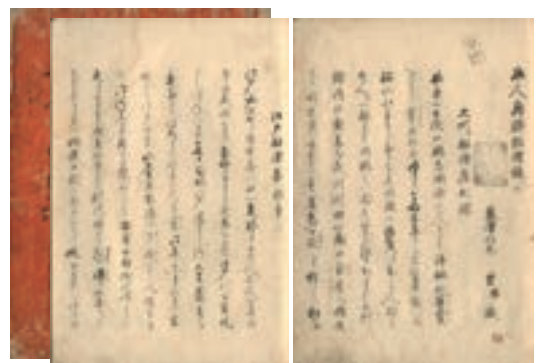
17) 褚氏遺書 1冊 ¥39,600

褚澄編 胡文煥校 吉田屋四郎右衛門版 延宝元年
刊 頭書に「政直按～」とする書入れあり 蔵書印「浅
井傳家」 27.2×19.2匁 【状態】題箋欠、表紙疵



20) 瓊浦筆語,附盤溪小稿 1冊 ¥27,500

大槻盤溪輯 文政10年跋 25.6×17.8匁 【状態】
改装、虫損(文字欠損あり)



19) 無人島談話附録 1冊 ¥22,000

江戸後期写 曾槃編 36丁 28.2×19匁 【状態】浸



21) 丁卯紀事 1巻 ¥187,000

大槻盤溪の漢詩、書状、来状など21通を貼り込んだ卷子。題辞の後に「六十七翁／崇書」と記され、「盤翁」の印も押されていることから、慶応3年に盤溪自ら身の書状類をこの卷子にまとめたものと思われる。主なものとして、①大童信太夫宛、盤溪書簡、②盤溪宛、泉志摩書簡、③大槻修次宛、主膳書簡、④盤溪宛、瀬成田求馬書簡、⑤盤溪宛、金子謙書簡、⑥盤溪宛、大童信太夫書簡、⑦但木土佐宛、進藤式部少輔書簡、⑧大槻修二郎宛、神林美三郎書簡などで、その他、署名のない書簡や漢詩類など十数通を含む。内容は、盤溪が林家の員長に推挙された件や、儒書の開講依頼、揮毫願ひ、世上の事件、西国藩の動向、藩の前途などについて記されている。18.8×1080種。虫損、文字欠損あり。



22) 東洋遍歴記 1冊 ¥176,000

原題PEREGRINACAM DE FERNAM MENDES PINTO フェルナン・メンデス・ピント著 1678年リスボン刊 ポルトガル語版第2版(1614年初版) 扉,序文,1-311,340-390,421-445(欠丁なし) 28.8×19.5種【状態】虫損(文字欠損あり)、少破損、扉一部補写あり



23) 蝦和英三対辞書 1冊 ¥88,000

ジョン・パチェラ著 北海道廳版 明治22年刊 80,287p 蔵書印「小金井図書」 23.6×16.5種【状態】背にビニールテープ補修、見返し・巻末ページ一部に裂け